

令和7年度 第1回熊本市小中一貫教育懇談会（概要版）

「今後、各学校が自走していくためには」令和7年7月22日（火）15:00～16:30

座長より 小中一貫教育懇談会の目的について

①小中一貫教育懇談会の目的

熊本市における小中一貫教育及び幼小中連携教育のあり方、推進方法等について意見交換し、特色ある教育の推進を図るとともに、その成果を活用することにより熊本市全体の教育の質の向上を図る。

②連携を充実させるための2つの方法

◇連携して取り組む対象づくり

（小中一貫教育目標、小中一貫カリキュラム等）

◇連携者同士の関係性づくり

（教職員同士と子ども同士が交流する）

③小中一貫教育懇談会の今年度の目標

小中一貫教育及び幼小中連携教育について、これから各学校が主体的に取り組を進めていくために、どのような仕組みを整えればよいか

★今後、各学校が自走していくためにはどうすればよいか？

④小中一貫教育懇談会の今年度の計画

第1回：今後の取組案（概要）についての議論

第2回：今後の取組案（詳細）についての議論

事務局説明 今後の小中一貫教育及び幼小中連携教育の取組（概要）について

①A・Bグループの小中一貫校への移行完了

A・Bグループの小中一貫校への移行を平成31年から進め、令和7年4月で完了



これからは各学校が各校区の実態に合わせながら主体的に取り組を進めていく必要がある



各学校が自走していく段階へ

小中一貫校

Aグループ (小1中1)	Bグループ (小複中1)	Cグループ (小複中複)
5中学校区	17中学校区	20中学校区
小中一貫教育と 幼小中連携教育	小中一貫教育と 幼小中連携教育	幼小中連携教育

②各学校が自走していくための事務局としての今後の取組案（概要）

●担当者用の手引書の作成

- ・小中一貫教育や幼小中連携の担当者向け
- ・担当者の年間の動きの例を提示

●幼小中連携の日実施記録の改訂

- ・A、Bグループ用とCグループ用の作成
- ・独自の評価指標

●事例紹介方法の検討

- ・情報収集（実施記録や巡回による）
- ・各学校から閲覧できる環境の整備

●各種助言・支援

- ・小中一貫教育推進サポーター
- ・担当者向けのオンライン相談会の実施

意見交換のまとめ ～ 今後、各学校が自走していくためには ～

- 他の学校がどんなことをされているかという情報が見れば、担当者は考えやすいと思う。
- 子どもたちが交流したり、外部から講師を呼んだりするための予算を確保してほしい。
- 持続可能な形を模索しながら、少しずつバージョンアップをすることを大切にしている。
- Cグループは足並みを揃えることは難しい部分があるが、地域の特徴をいかながら小学校での取組が中学校にもつながるような工夫をして、できるところから連携を進めている。
- 小学校と中学校のPTAの仲がよく、保護者から連携についての取組案をいただいている。
- 取組を続けていくと、取組自体が目的になってしまうことがある。何のためにするのかというねらいをしっかりとっておく必要がある。
- 外国語専科の先生が中学校区の小学校を複数教えることは中学校入学時の語学力を揃えるために効果が高い。中1にも乗り入れ授業をできるような取組があると中1ギャップの軽減につながる。
- コミュニティスクールをつくっていくことで、小中一貫教育が進んでいくのではないかなと思う。
- 中学校区内で他の学校の取組のよい点を取り込んでいくことで連携が深まっていく。
- 担当者だけではなく、職員全員の意識を変えることが大切である。取組のよさや効果を職員の交流や話し合いによって共有していくことが自走することにつながる。